

図- 2 片側床スラブ付き梁の断面図

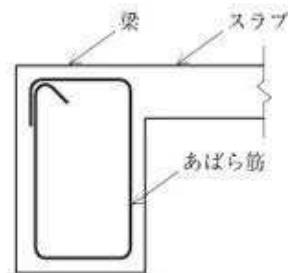


図- 3

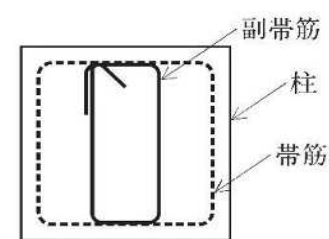
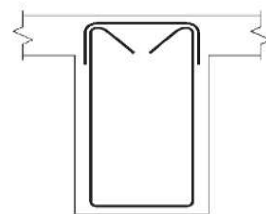


図- 1

1. 大梁にU字形のあばら筋とともに用いるキャップタイについては、梁天端と段差のないスラブが取り付け側を90度フックとした。(平成29年)
2. SD345のD29の鉄筋に180度フックを設けるための折曲げ加工を行う場合、その余長は4d以上とする。(平成25年)
3. 幅300mm、せい600mmの梁に、D10のあばら筋を200mm間隔(せん断補強筋比:0.23%)で配筋した。(平成24年)
4. 帯筋を100mm間隔で配筋した700mm角の柱と、幅300mm、せい600mmの梁との交差部である柱梁接合部に、D13の帯筋を100mm間隔(せん断補強筋比:0.36%)で配筋した。(平成24年)
5. 柱梁接合部において、せん断補強筋比が0.3%相当となるように帯筋を配筋した。(令和4年,令和1年,平成28年)
6. 幅300mm、せい600mm、有効せい540mmの梁に、引張鉄筋としてD22の主筋を3本(引張鉄筋比:0.71%)配筋した。(平成24年)
7. 建築物の使用上の支障が起こらないことを確認しなかったため、厚さ250mmの床版の短辺方向及び長辺方向に、上端筋及び下端筋としてそれぞれD13のスラブ筋を300mm間隔で床版全面に配筋した。(平成24年)